

CBCニュース



「今年はずららしい年で
すね」ある先生の一言
が今でも忘れられない。
ここ中央聖書学校キャン
パスにおいて毎年色を添え、
心を和ませてくれるとい
う染井吉野が、今年は四月六
日入学式びつたりと満開に
なつたのである。入学式の
事については月刊アッセン
ブリ誌に記載されている
ので御一読願えればと思
うが、ここでは如何に今年
が「めずらしい年」である
かをここ数年間の入学者
で気が付いたことを基に
挙げてみたいと思う。その
一番目として言えることは
入学人数が多いということ

主の器、駒込の山へ！

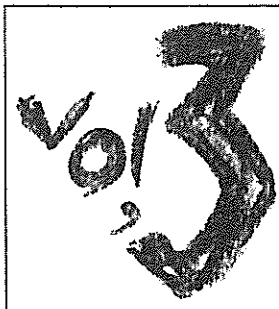
私たちの思いを遙かに越えて

である。
現在三二
名の内の
約半数に
当る一五
名が新入
生である
し、この
年間の学
びをする
者が内八
名おり、
いわゆる
二年生（本
校は四年
制）基本
として
短大等
の他、大
学・学
力有する
者は2学
年に編入
される。が
三二名中
一、二名
を有する
のである。
また、第
二番目と
しては、男
子が多い
ことであ
る。一五
名中九名
（約三分
の二）が
男子とい
うのである。
（これは余
談である
が）もし
来年も同
じく、男
子寮では
客室をも
使用しな
ければなら
ない。



静心
ドライブをしながらNH
K第一放送を聞いていた。
自叙伝の朗読であった。二
つの番組が、思い合せたよ
うに、人間の死にざまに触
れていた。朝には、「下手
な死に方」、午後は「華麗
な死に方」という表現で、
死が描かれていた。死ぬと
いう厳粛な人生の節目に不

相応な形容動詞ではあつ
たが、語られている内容
とコンテキストにはびつ
たりであった。生きてい
るものは「下手」でも「
華麗」でも一度は死なね
ばならない。だから捕
まえない「生」が「死」に捕
まえられるまで、人はど
う生きようか悶々とする
ところ。聖書はその逆
を教える。死ぬまで、ど
う生きるかではなくて、
生きるためにどう死ぬ
かである。永遠の生に至
るため罪に死に、自分の
肉を殺し続けなければな
らない。「私が生きてい
るのではない、キリスト
が私のうちに生きる」た
めに、神学校で「下手」
でも「華麗」でもとにか
くこの「死に方」を学ば
ねば、卒業式はいつまで
もやつてこない。



CBCの

ばんくず

① OUR MEAL! ②

◆忙しい神学校生活。ルームメイトとお
茶するときの美味しい手作りお菓子を
をご紹介します。



バター 100g
小麦粉 172g
卵 1個
①パイ生地をつくり
餃子の皮のようにする
揚げ apple pie (りんご大3個
さとうシモン)
②生地を油できつね色に
揚げて出来とり。

わたしの本棚

◆神学生によく読まれている本をご
紹介致します。今回は、
「悪魔の手紙」 C・Sルイス著
非常にインパクトのあるタイトルの
本である。童話作家でもある著者は
その鋭い感性と洞察力によってこの
作品を書いた。2人の悪魔の往復書
簡を通して、私たちの日常生活や、
宗教生活においてすら、悪の力によ
って誘惑される可能性があることを
ユーモラスにしかし、辛辣に風刺し
ている。

③ 祈り班の祈り

◆神学校では、いくつかの祈り班があり
ます。日本の各地域のため、異端救出、
海外宣教、など現在8つの班にそれぞれ
分かれて熱心な祈りを捧げています。小
さな祈り会ですが、神は答えて下さり、
「祈りが答えられた」という証が多く
与えられています。

私たちは
北海道
みちのく祈り班
です！



お祈り下さい！

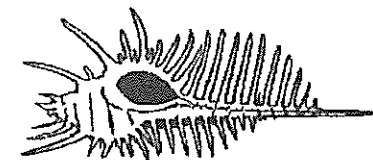
- 学生の学びと健康のために
- 教師の働きと祝福のために
- 献身者がさらに起こされるように
- 神学校のリバイバル
- CBCニュースの働きのために

編集後記

駒込山の神学校は、今年15名という非常に多くの新入生を迎え、一段とにぎ
やかになり、活気にあふれています。CBCニュースが「息吹き」に様変わりし
て、2年目を迎えました。色々な方からの感想や、応援を頂いて、感謝していま
す。さらに、神学校に神様が送り込まれる、聖霊の息吹の、真実の証しを皆様
にお伝えできるように努力してゆこうと願っています。

編集責任者 北野耕一 編集部員 6名

事務局 東京都豊島区駒込 3-15-20 中央聖書学校
TEL (03) 3918-4925 Fax (03) 3918-4064



読者の声
読者の声を募集しています
感想や意見、または神学校
や献身に関する素朴な疑問
や質問、などなど、何でも
編集部にお寄せ下さい！！

前進する宣教！ 沖縄派遣を終えて・・・

沖繩——そこはかつて琉球王国と呼ばれ、独自の文化をもつ国であった。一度は行つてみたい未知の島。この沖繩に今年の三月、四年生がキャラバンを組んで、十日間に渡つて各教会を訪問した。——海の青、空の青、木々の緑、光輝く太陽、どこをみても神様の栄光を語り告げているようだ。自然と共存している人々の純朴さが印象に残る。あまりの居心地の良さに帰らたくないの声もチラホラ。しかし、何よりも沖繩のことを何も知らなかつたということに気付かされた。事実、沖繩のことを私たちはあまり知らない。そこで、今回は神学生が見た沖繩を綴つてみたい。

沖繩に初めてキリスト教が伝えられたのが一六六二年のことである。



現在、沖繩の現在のクリチャン人口は3%で、日本の中で最も多い県である。太平洋戦争における多くの犠牲と悲劇は周知の事である。この戦争は沖繩の人々の心を踏み躪り、深い傷を残すものであった。平和に対する飢え、渇き、従順な心―これらのものがあいまって、クリスチャン人口3%という結果になっているのだろうか。歴史的には、一九二〇年代の大正デモクラシーの時には、知識欲に燃える多くの若者たちが、新しい考え方を学ぶ良い場として集った。また、敗戦後のアメリカの占領下では、宣教師による宣教活動が非常によく行なわれたため、多くの人々が福音を聞く機会に恵まれたという背景もある。

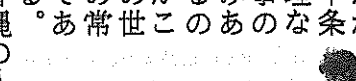
沖繩の民間信仰は「祖先崇拜」と「ユタ信仰」である。祖先崇拜は、位牌そのものを先祖とし、位牌そのものを大事に祭ることが、家の風習として、代々受け継がれているものである。また、ユ

タ僧仰も人々の生活の中に入り込んでいる。ユタとは、先祖の靈のミツゲタに聞き、病人が出たと言つてはユタに聞く。ユタの言いなりになつて、家を立て替えたり、お金を払つてゐる内に、ついには破産してしまふといふこともあるそうだ。最近ユタに関する訴訟があった。判決では、ユタが勝つたそうだ。しかし、わたしたちの主はほむべきかな。罪責感に悩むひとりのユタが回心したときつかげに、三十人のユタが救われたのであるハレルヤ！悪靈の働きも顕著であるが、聖靈の力は、それを打ち破る勝利の力であることを確信する。

沖繩の子どもたちは実に人懐っこい。公園や広場で一声かければ、二、三十人はすぐに集まる。しかし、その無邪気さの影に、高い離婚率が示す家庭崩壊の問題があるのだ。混血児だとか、父親がいらないということでいじめられたりする。子どもには何ら責任はないの

だが不条理な事柄の多いのがこの世の常である。沖繩の人は、とにかく明るく、そして友好的である。道を歩いていると、「いちやればちようれい（会えば兄弟）」と言ってお茶を出してくれる。家には大袈裟な玄関がなく、気軽に入っていける構造になっている。そして、人の交わりにも隔たりがない。誰でも受け入れてくれる。美しく豊かな自然の中で育まれた沖縄人の暖かい心に、神様の愛が透けて見えるようだ。

沖繩をほんの少しだけ知った私たちであるが、新たな思いで人々の救霊のために祈るものにさせて頂きたい。



Vol. 3 「献身と寮生活」

監 石原嘉宣

また、山から掘り出された原石型献身者もいる。信仰的には純粋な所もあり、良き資質もあるがクリスチャン品性において荒削りであり、謙遜と祈りと訓練において磨きが必要である。

いずれにしても、寮生は将来を考え、神学の基本を身につけ、生涯学び続ける方法を学んでもらいたい。また旧約列王下六章のエリシャ預言者学校の学生のように、寮生活の中であらゆる体験を積み重ねることが大切である。なぜなら聖霊は、わたしたち人間の霊に神の御言の真理をもって迫られるからである。

今日における神の働き人としては、聖書全体の学びを通して「あらゆる真理」に導かれ、福音を正しく伝達する訓練を受ける必要があると思う。こうした学びと訓練を受けて、整えられた働き人が生れ、それぞれの主観的召命を客観化する過程がCBCなのです。

聖書と考古学

ダビデ・ハイムス

聖書と考古学との関係は深く、長い。考古学は、聖書解釈に役立つものであるが、それは同時に慎重な取り扱いを必要とする。聖書の解釈の道具として、考古学が可能なことと、不可能なことを、見きわめねばならない。

考古学は、聖書学に時間と歴史の前後関係を教えてくれる。考古学によって、ある時代の文化、政治、経済に関する仮説をたてることができる。そして、この仮説によって、聖書解釈をすすめることができるのである。このような、有名なことばがある。「考古学は、テキストを確立しない。それはそれである。できることは、解釈を確立することである。」なぜ、ダビデがサウル王の上着のすそを

切りとったとき、サウルが「あなたが必ず王となることを、わたしは知った」と言ったのだろう。（サムエル記 2 4 章）

答えは古代中東における「すそ」に隠されている。すそは、地位と権力をあらわすシンボルであつた。考古学が発見した文書がそれを教えてくれる。ダビデはサウルの人格の一部を切りとつたのだ。

またイラクで発見された文書によると、すそは予言が的中した「しるし」としても用いられたようである。王や貴族は、すそによって見分けることができた。だからこそ、サウルは、自分の王族のしるしが切りとられた時、ダビデが王になることが、ハッキリわかったのである。

考古学は正しく利用すれば、私たちの
聖書理解を豊かにしてくれるのである。